

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災発生時の夜間帯を想定した避難訓練を実施してきたが、風水害・地震発生を含めた具体的な防災計画、避難訓練が必要不可欠である。	風水害・地震・火災等を想定した職員の防災教育、総合的な防災計画の検討と作成を行い、防災避難訓練を地域の人達と協力して実施する。	災害危機管理に関する職員学習会の実施。総合的な防災計画の検討と作成。地域住民との協力による訓練の実施。	10 か月
2	10	グループホームのケアに関する家族の思いや要望、入居者に関する家族からの情報をじっくり聞く機会が充分ではない。家族とのコミュニケーションを意識的に行うことが大事である。	グループホームのケアや運営について、家族の意見や思いを交流できる機会を持つ。	来春(4~5月)に、家族の集いを開催する。また、日常的に電話やたよりを通じて、入居者の生活や健康状態を連絡し、意思疎通をはかる。	8 か月
3	26	ケアマネジャー、入居者個々の担当職員が本人、家族の意見を聞きながら、ケア計画を作成し、職員会議等での共有化をはかっているが、アセスメント、モニタリングや評価に不十分さがある。	具体的なアセスメント、継続的なモニタリングと評価を行い、職員チームでの共有化をはかる。	月1回の事例検討会の定例化をはかるとともに、ケア計画に基づいたケアの実践の振り返り、評価を継続的に行い、定着化させていく。	8 か月
4	34	入居者の心身の状態の重度化、高齢化が進み、転倒・誤嚥などの事故発生が予測される。その危険を回避する方法や急変時の対応が必要である。	職員が日常的にリスクマネジメントの意識を持つとともに、急変時の救命救急対応の方法、医療的な知識を実践的に身につける。	職員を対象にした救命救急の講習の定期的な開催と、職場での医療的ケアの実践的な学習に取り組む。	10 か月
5	4	運営推進会議の定期的開催が定着してきているが、会議の構成員の拡大と開催方法を工夫する必要がある。	隣接する小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を持ち、定例化していく。	運営推進会議の参加を幅広く呼び掛け、小規模多機能ホームとの合同開催と定例化をはかり、活気のある会議とする。	10 か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。